シリーズ人権教育　第１３０回

被害者とともに



　ある日突然連れ去られ、今も救出を待ち続けている・・・。それが自分だったら、自分の家族だったら。

　昭和４５年から昭和５５年にかけて、多くの日本人が不自然な形で行方不明となりました。これらの事件の多くは、北朝鮮当局による拉致の疑いが濃厚であることがあきらかになったため、平成３年以来、日本政府は、機会あるごとに北朝鮮当局に対して拉致問題を提起してきました。

　平成１４年９月に、北朝鮮当局は、初めて日本人拉致を認め、同年１０月に、５人の被害者が帰国しました。平成１６年にはその家族８人の帰国・来日が実現しましたが、他の被害者については、北朝鮮当局は、いまだに問題の解決に向けた具体的行動をとっていません。

　日本政府は、現在までに１７人を北朝鮮当局による拉致被害者として認定し、このほかにも拉致された可能性を排除できない人が存在しているとの認識のもとに調査や捜査を進め、すべての拉致被害者の一刻も早い帰国に向けて、取組みを進めています。



問題に対する認識を深めよう

　なぜ日本人は拉致されたのでしょうか？真相は分かっていませんが、日本人をよそおって韓国にスパイを送り込むという方法が考えられたという説があります。

　日本人を北朝鮮側のスパイにしたり、北朝鮮のスパイに日本の習慣や日本語を教える先生にするために、日本人を拉致したというのです。

　国民の認識を深めること等を目的として、「北朝鮮人権侵害問題啓発週間」（１２月１０日～１６日）が創設され、また、平成２３年に「北朝鮮による拉致問題等」は、「人権教育・啓発に関する基本計画」の人権課題の一つとして追加されました。

　私たちは、拉致問題の解決が国民的な重要課題であることを踏まえ、この問題に対する関心と認識を深めていかなければなりません。

【参考資料】

「気づき」からはじめる　（広島県）

人権ア・ラ・カルト

拉致問題対策本部

（ホームページ）

